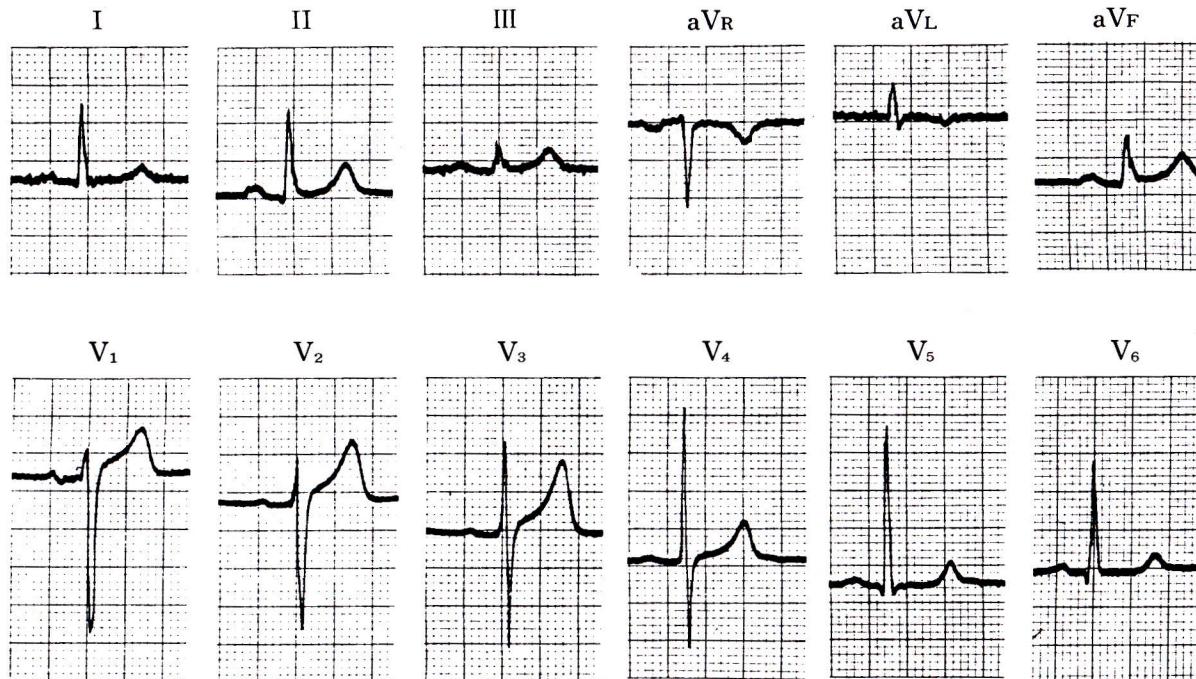


# 症例 55

●43歳 男

●糖尿病、慢性腎不全(Kimmelstiel-Wilson症候群)の患者で、経過観察のために記録したもの。



123

1) この心電図をどうみるか。

## 症例55 左室肥大

心電図診断

$V_1$ のS波と $V_6$ のR波を加えると41mmであり、左室肥大の基準を満足する。 $V_5, V_6$ のT波がやや低いが、R波の $\frac{1}{4}$ は超えており、有意なST低下もみられない。 $aVL$ の陰性T波もR波の振幅

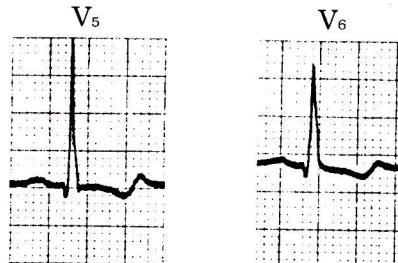
が小さいため、所見としてはとれない。しかし、 $V_5, V_6$ のST水平部が長く、T波の陽性部分の幅が狭いことに注目したい。

### MEMO <ST segmentのprolongation>

124

陽性T波が存在する誘導ではST segmentは緩やかに上昇してT波に移行するが、ST segmentが水平のまま（基線上）でつづき、幅の狭い陽性T波に移行するパターン（前ページ：設問の $V_5, V_6$ ）をST segmentのprolongationといい、2相性～陰性T波へ移行する過渡状態である可能性がある。

右の心電図は前ページの症例の半年後の $V_5, V_6$ であり、陽性T波が2相性T波に変化している。



前ページ(設問)症例  
の半年後の $V_5, V_6$